

# 未来への遺産



高取伊好自ら謡い、舞ったという能舞台

佐賀県  
炭鉱王の邸宅「旧高取家住宅」



七宝焼の引手金具



京都の絵師、水野香圃によって描かれた杉戸絵



広大な敷地に建てられた邸宅

佐賀県の北西部に位置する唐津市。ここに、九州の石炭王としてその名をはせた高取伊好たかとりこれよしが明治三十七年に建てた邸宅「旧高取家住宅（旧高取邸）」があります。

和風と洋風が見事に融合した近代和風建築で、植物の浮き彫りや型抜き動物を施した欄間、京都四条派の水野香圃みずのこうほが描いた杉戸絵など、細部にわたって意匠が凝らされています。特に大広間に設けられた能舞台は必見です。多久藩の儒者の家に育った伊好は文化教養が高く、能や漢詩にも造詣が深かったと言います。そんな伊好の品格や美意識の高さが表現された、一つの芸術品だと言えるでしょう。

「旧高取家住宅」は、国の重要文化財に指定されており、また、世界遺産の暫定一覧表に記載された「九州・山口の近代化産業遺産群」を構成するものの一つとなっています。

高い芸術性を備え、かつ、歴史を語るこの「旧高取家住宅」を佐賀県の宝、そして世界の宝として未来に引き継いでいきたいと考えています。

お問い合わせ

佐賀県社会教育・文化財課

TEL 〇九五二―二五―七二三二